

Ⅲ 業 務 概 要

1 全体・成人サービス

1階の一般開架室には、芸術関係を除いたあらゆる分野の一般書を、参考図書・新書・文庫・外国書・大活字本・地域資料・白書なども含め、約131,000冊開架しています。また、新聞・雑誌や、全国の電話帳、国土地理院の地形図なども備えています。

中央サービスデスクは、図書館の総合窓口として利用者の登録手続、貸出（1階一般開架室・児童開架室の資料）、返却（CD・ビデオ・DVD以外の資料）、予約・リクエストの受付及び処理、簡便なレファレンスや所蔵調査、複写サービスなどを行っています。また、サービスデスクの一角に図書館相談コーナーを設け、多様な資料を活用してレファレンスや資料の相談などに応じています。

図書館資料の案内には、利用者開放端末4台を備えており、利用者が自由に検索できます。調査・研究をする方のために研究個室（4室）、パソコンルーム（2室）があります。高齢者や目の不自由な方には、点字図書や大活字本の貸出、朗読サービスも行っています。

令和4年11月の図書館電算システム入替に伴い、利用者向けウェブサービスを拡大しました。また、令和元年9月に開始したマイナンバーカードでの貸出サービスを継続しています。マイナンバーカードは、中央図書館の専用パソコンで図書館利用登録をした上で、中央図書館の自動貸出機のほか、中央サービスデスク、2階サービスデスク、各分館サービスデスクで貸出の利用ができます。

また、栃木県南3市2町（小山市・栃木市・下野市・野木町・壬生町）及び茨城県結城市と、広域利用に関する協定を結んでおり、近隣の市や町にお住まいの方にもご利用いただいています。さらに、平成29年10月16日に、小山市が関東どまんなかサミット会議に加盟したことにより、平成30年4月からは茨城県古河市、埼玉県加須市、群馬県板倉町との広域利用も始まりました。

（1）予約・リクエストサービスと相互協力

読みたい図書や雑誌が書架にない時は、予約・リクエストに応じています。その資料が貸出中の場合には、予約をし、返却され次第貸出しています。当館で所蔵していない図書のリクエストには、検討のうえ購入したり、ほかの公共図書館や国立国会図書館から借り受けるなどして、提供しています。また、予約・リクエスト件数は、全館合計で図書・雑誌・視聴覚資料あわせて1人20点までを上限としています。

図書館間の相互協力業務では、他の公共図書館への貸出と借受、所蔵の調査などを行っています。資料の搬送は、おもに栃木県立図書館の協力車の巡回を利用しており、多様なリクエストの対応に努めています。

また、平成29年2月から、国立国会図書館の「デジタル化資料送信サービス」、令和4年11月から、ホームページから図書のリクエストが利用できるようになりました。

（2）レファレンス（調査相談）サービス

利用者から寄せられる趣味や日常生活上の疑問、学問や仕事上の調査研究における質問や

相談などについて、図書館の資料を活用して利用者を援助します。内容に応じて利用案内、読書相談、事実調査、所蔵調査、参考調査などを行い、利用者の求める情報や資料を探すお手伝いをしています。必要に応じて、県内外の図書館や専門機関などを紹介するレフェラルサービスも行います。

また、平成18年6月から、ホームページでレファレンスに関する過去の事例検索やレファレンス申込みを受付しています。

(3) 複写サービス

調査・研究のために、図書館資料に限って、著作権法の範囲内で複写サービス(有料)を行っています。中央サービスデスクにコイン式の複写機を設置しており、複写申込みを受け付けてから、利用者が自分で複写を行ない、その後、職員がその複写物を確認する方法をとっています。

また、下野新聞のCD-ROM、DVD-ROM、データベースの複写サービスも行っています。

(4) 地域資料コーナー

小山市を中心として、栃木県及び県内市町、さらに近隣地域に関する図書をはじめ、さまざまな資料や情報を収集・整備して利用に供しています。自分の暮らす地域を知る身近な情報源として、市民の役に立てるよう努めています。栃木県史・小山市史・統計書・報告書や観光案内・ガイドブックなど幅広く利用されています。

(5) ビジネス支援サービス

ビジネスに関心を持つ方に必要な情報や知識を提供するため、ビジネス支援サービスに取り組んでいます。ビジネスを支援する関係機関等の中から市教育委員会が委嘱または任命する委員をもって組織する「おやまビジネス支援連絡会」を設置し、年2回の連絡会では、ビジネス支援に関する情報交換や、支援に必要な事項等を検討しています。

ビジネス支援サービスの一環として、1階一般開架室に「ビジネス支援コーナー」を設置し、ビジネス関連図書や無料求人情報誌、起業・創業者向けのパンフレット、中小企業支援策、企業のCSR報告書などのビジネス情報を提供しています。ビジネスに関連したテーマごとに、図書館に所蔵している資料等を紹介するブックリストも作成し、図書の展示も行っています。

パソコンルームでは、インターネットや、オンラインデータベース4種が利用できるパソコンを設置し、図書では調べにくい新聞記事や法律情報、最新の情報等を提供しています。令和5年度は、「下野新聞データベースplus日経テレコン」「ルーラル電子図書館」「官報情報検索サービス」「法情報総合データベース」をご利用いただくことができます。また、自分のパソコンを持ち込んで作業ができる部屋も用意しています。

また、館内の展示ケースとパネルを市内の企業等に開放し、その魅力や取組を発信してもらう「発見！小山ゆかりの企業展」を実施し、地元企業等を応援しています。公益財団法人栃木県産業振興センターの協力も得ながら、開始以来、令和4年度までに延べ59社の展示を実施しました。

平成29年度からは、栃木県よろず支援拠点（公益財団法人栃木県産業振興センター）との連携により、「小山市立中央図書館サテライト（無料経営相談会）」を開設し、経営上の悩み事を幅広い専門分野のコーディネーターに相談できる「個別相談」と、テーマを絞った少人数の「ミニセミナー」を開催しています。令和5年度の開設は、毎月第2・第4土曜日の午前10時から17時30分までです。

（6）農業支援サービス

ビジネス支援サービスの一環として、農業支援サービスを行っています。「図書館は小山の農業を応援します！」をキャッチフレーズに、地域に根ざした図書館サービスの充実と農業の活性化及び地域の振興・発展に貢献することを目指しています。図書館の機能や資料を活用し、市農政課等関係機関と連携・タイアップして事業を実施しています。

1階一般開架室に「農業支援コーナー」を設置し、農業関連図書やパンフレットなどの農業に関する様々な情報を提供しています。農業に関連したテーマごとに図書館所蔵の図書等を紹介するブックリストも作成し、図書の展示も行っています。

「おやまブランド特産品コーナー」では、おやまブランドを中心とした小山の特産品・加工品を集めて紹介しています。

サービス開始から10周年を迎えた平成29年度は、記念シンポジウムを開催したほか、「図書館で出会う！つながる！おやまがもっと好きになる！～小山市立中央図書館ビジネス・農業支援サービス事業10周年記念誌」を発行しました。また、アメリカ、シカゴ市で開催されたALA（米国図書館協会）のポスターセッションにおいて、当館の農業支援サービス事業の事例発表が行われました。

平成30年10月には、NPO法人知的資源イニシアティブ主催「Library of the Year（ライブラリー・オブ・ザ・イヤー）2018」において、これまでの活動が評価され、優秀賞を受賞しました。

（7）新聞・雑誌コーナー

各種の新聞・雑誌をそろえ、速報性のある最新の情報や気軽に読める娯楽的な情報を提供しています。

新聞は、主要な全国紙・地方紙・機関紙等17紙と、新聞縮刷版5種を収集しています。

雑誌は、さまざまな分野のポピュラーな基本雑誌を中心に、小山市及び近隣地域で刊行された雑誌、寄贈を受けた雑誌など143誌を開架し、バックナンバーを貸出しています。

また地域の小冊子、寄贈の小冊子等の雑刊物も開架し、利用に供しています。

（8）展示コーナー

来館者の資料に対する興味を一層深めるため、また、魅力ある楽しい雰囲気を作るため、展示パネル・展示ケースなどを備えて、館内の企画展示や各種の資料展示、ポスターなどの掲示を効果的に行っています。この展示ケースは、一部を「市民展示」として一般の方に開放し、手芸や工芸その他の作品の発表等に活用しています。

お知らせコーナーでは、図書館の行事予定や小山市の催し物等の情報を提供しています。

2 児童サービス

児童開架室には、主に幼児から小学生までを対象に、さまざまな分野の児童書・絵本・紙芝居など約26,000冊と雑誌13誌・新聞1紙を開架しています。また、予備書架を設けて利用の多い資料の複本を用意し、スムーズに利用者に提供できるようにしています。児童開架室は、より多くの子どもたちと接し、読書の楽しさを知ってもらうと同時に、図書館を身近に感じて親しんでもらえるよう努めています。

(1) レファレンス（調査相談）サービス

児童サービスデスクでは、子どもの読書や調べ物の相談、児童書に関する相談業務を中心に、予約・リクエストの受付や資料の整備、おはなし会をはじめとする行事等の企画・運営などを行っています。相談業務に重点をおいているため、ここでは貸出・返却は行いません。

(2) 調べものコーナー

児童開架室内には、小中学生の総合学習・調べ学習に対応するため、各分野の参考図書や図鑑を配架した調べものコーナーが設けてあります。

(3) 絵本コーナー

毎月テーマを替えて図書を展示するフェイス・トゥ・アウトコーナーや、司書が選んだ絵本リスト「赤ちゃんから楽しめる絵本」「いっしょに読みたい絵本」に掲載した絵本を集めたコーナー、外国語(英語・韓国語など)で書かれている絵本を集めた外国語絵本コーナーなどを設け、目的によって利用しやすいようレイアウトを工夫しています。

(4) おはなし会

児童開架室の一角にあるおはなしコーナーで、おはなしや絵本の読み聞かせ、紙芝居などを毎月定例的に行っています。おはなし会は、職員による「おはなしウェンディ」（毎月第1水曜日開催）、「おはなしウェンディ0・1・2」（毎月第3水曜日開催）と、4つのボランティアグループ（「はなしのこべや」「おはなし水曜会」「朗読サークル『かがやき』」「小山子どもの本連絡会」）がそれぞれ行っています。

(5) 行事・講座

「としょかんこどもまつり」（5月）、としょかんこども会「たなばた会」（7月）、「クリスマス会」（12月）等があり、好評を博しています。読書活動推進の担い手の輪を広げるため、図書館活動及び本に興味、関心がある市内在住の小学校及び義務教育学校5・6年生を対象とした「子ども司書養成セミナー」（5月～9月、全8回）を開催します。夏休み期間には、子どもを読書へと誘う事業を開催します。

また、大人を対象とした「子どもと本をつなぐ講座」を開催し、子どもたちにおはなしを聞く楽しさや本を読む楽しさを伝える「おはなしボランティア」を養成し、学校や地域の要請に応じて活動の場を紹介しています。

「絵本とこんにちは」事業は、市健康増進課が実施する「9か月児健康相談」の際に、赤ちゃんと保護者が、絵本を介して心ふれあう時間を持つきっかけづくりとなるように、絵本のプレゼントと、赤ちゃんと絵本を楽しむ時間を体験していただく取組みです。毎回、市保健センターに出向き、ボランティアの協力も得ながら、年間30回実施します。その後も、継続して本に親しめるよう、図書館の利用をすすめる、おはなし会への参加を促して、乳幼児からの読書活動を支援しています。

「すくすく・ほっと・タイム」は、赤ちゃんなど幼いお子さんと、その保護者の方が、図書館を気兼ねなくご利用いただくための時間帯です。「おはなしウェンディ0・1・2」とも関連づけて、毎月第3水曜日午前10時30分から12時に実施しています。赤ちゃんには、図書館ですくすくと健やかに過ごせる時間を、保護者の方には、図書館でほっとできる時間を提供します。

3 芸術・青少年・視聴覚サービス

2階の一般開架室には、芸術関係や青少年向けの資料、視聴覚資料をそれぞれのコーナーに開架しています。

2階サービスデスクでは、図書・雑誌の貸出と予約・リクエストの受付、CD・ビデオ・DVDの貸出・返却と予約の受付、レファレンスサービス、視聴席の管理などを行っています。

視聴覚資料によるサービスでは、CD・ビデオ・DVDを所蔵しており、個人貸出ができません。所蔵資料に加え、県内図書館所蔵のCD及びレコードの予約にも応じています。

また、2階の集会室を、集会行事がない日に限り、個人学習をする人のために学習室として開放しています。

(1) 芸術コーナー

視聴覚資料に関連した美術・音楽・演劇・その他の芸術関係の図書約13,000冊を開架しています。

(2) 青少年コーナー

中学生から高校生を主な対象とし、青少年向けの図書約11,000冊をそろえ、青少年の読書をすすめています。学び、読み、また、音楽や映像にも親しめるように、視聴覚コーナーと隣接したスペースに設けています。

図書は、一般書と児童書のさまざまな分野から青少年向けの図書を選んで開架し、必要に応じて入れ替えを行っています。

また、気軽に読書を楽しむきっかけ作りとして、手塚治虫などの漫画やティーン向けの文庫本なども開架し、利用者の好評を得ています。

(3) 視聴覚コーナー

CDは、邦楽・洋楽・ジャズ・クラシック・その他さまざまなジャンルから約12,600点、DVDは邦画・洋画・アニメ・幼児向け・趣味・教養など約3,000点、ビデオは、同様に約2,300点を所蔵しています。

4 小山分館

小山分館は、小山市中央市民会館の2階にあります。平成19年3月、市教育委員会事務局事務室の移転に伴って、規模を縮小しリニューアルしました。開架室では、一般書・児童書などの図書資料を開架し、奉仕業務を行っています。

開架室には、一般書と地域資料約26,400冊、児童書と絵本及び紙芝居など約10,900冊の計約37,300冊の資料を開架しています。また、利用者開放端末（1台）と図書用除菌機（1台）を設置しています。

閲覧室には図書資料を利用した調査・研究・読書のため、閲覧席を48席設けています。

サービスデスクでは、登録・貸出・返却のほか、予約・リクエストサービス、レファレンスサービス（調査相談）、複写サービスを行っています。予約・リクエスト、レファレンス等資料に関する相談については、気軽に利用できるよう努めています。

また、中央市民会館の会場を借用して、ボランティアによる「小山分館ピッコロおはなしかい」を毎月第1金曜日に行っています。

5 間々田分館

間々田分館は、小山市間々田市民交流センター内（愛称しらさぎ館）にあり、平成21年4月1日に開館しました。開架室では、一般書・児童書などの図書資料を開架し、奉仕業務を行っています。

開架室には、一般書と地域資料約8,900冊、児童書と絵本及び紙芝居など約7,700冊、計約16,600冊の資料を開架しています。また、利用者開放端末（1台）と図書用除菌機（1台）を設置し、図書資料を利用した調査・研究・読書のための閲覧席も8席設けています。

サービスデスクでは、登録・貸出・返却のほか、予約・リクエストサービス・レファレンスサービス（調査相談）を行っています。予約・リクエスト、レファレンス等資料に関する相談については、気軽に利用できるよう努めています。

また、しらさぎ館の会場を借用して、「小山子どもの本連絡会」ボランティアの協力による「ままだ分館おはなしかい」を毎月第2火曜日に行っています。

6 桑分館

桑分館は、小山市桑市民交流センター内（愛称マルベリー館）にあり、平成28年4月1日に開館しました。開架室では、一般書・児童書などの図書資料を開架し、奉仕業務を行っています。

開架室には、一般書と地域資料約8,200冊、児童書と絵本及び紙芝居など約5,800冊、あわせて約14,000冊の資料を開架しています。また、利用者開放端末（1台）と図書用除菌機（1台）を設置し、図書資料を利用した調査・研究・読書のための閲覧席を24席設けています。

サービスデスクでは、登録・貸出・返却のほか、予約・リクエストサービス・レファレンス

サービス（調査相談）を行っています。予約・リクエスト、レファレンス等資料に関する相談については、気軽に利用できるよう努めています。

また、平成30年11月から、ボランティアによる「わくわくマルベリーおはなし会」を、毎月第3土曜日に行っています。

7 移動図書館・公民館図書室・配本所

図書館サービスを市の全域に広めるため、図書館から遠距離に住む市民を対象に、移動図書館・公民館図書室・配本所において図書館サービスを行っています。

(1) 移動図書館

移動図書館“せきれい”が、市内19か所の開設場所を毎月1回巡回しています。

移動図書館には、図書・紙芝居など約3,000点の資料を積載し、利用者の要望に応えています。

また、図書の積み替えを行い、すべての開設場所において均等なサービスを提供できるよう努めています。

(2) 公民館図書室・配本所

絹・寒川・生井・中・大谷の5か所の各公民館に図書室を、穂積・豊田公民館と小山市小南城南市民交流センターの3か所に配本所を設置しています。各館の令和4年度の所蔵冊数は、絹公民館が約5,100冊、寒川公民館が約4,700冊、生井公民館が約5,100冊、中公民館が約4,600冊、大谷公民館が約3,800冊、穂積公民館が約600冊、豊田公民館が約1,400冊、小南城南市民交流センターが約4,600冊です。地域の住民が身近なところで日常的に利用できる図書室サービスを展開しています。貸出・返却業務は公民館職員等が担当し、図書館は資料の提供を行っています。

各図書室・配本所の図書は毎月定期的に入れ替え、新鮮で魅力ある蔵書の構成を目指しています。

8 資料の収集・整理

図書館では、市民の教養を高め、情操を豊かにし、生活文化の向上に役立てるため、また、生涯学習の拠点として、多様化・高度化・国際化する情報社会に対応するため、「図書館の自由に関する宣言」及び「図書館員の倫理綱領」をふまえ、必要な資料の収集を行っています。

資料の収集にあたっては、小山市立図書館「資料収集方針」及び「資料選択基準」に基づき、一般書・児童書・地域資料・青少年資料・視聴覚資料・障がい者サービス資料・逐次刊行物など、社会の動向や市民のニーズ、利用状況、出版状況等を総合的に判断し、さまざまな観点から広範囲な資料の収集を心掛けています。

また、中央図書館・分館・移動図書館・公民館図書室・配本所の資料を小山市全体の蔵書と捉え、資料の選定や発注、受入、保存、除籍等の作業を、中央図書館を中心に行っています。

蔵書の適正な維持管理のため、年に一度、特別整理期間を設け、蔵書点検をはじめとした図書館資料の整理を実施しています。また、日常的に書架整理を行い、新着図書の配架や保存書庫への移動などを行っています。さらに、「資料除籍・廃棄基準」に照らして対象資料を選別し、除籍・廃棄処理を行います。

(1) 資料選定会

週1回、職員で構成する資料選定会を開催して、新刊案内や出版カタログ、利用者からのリクエストなどを参考に、資料の選定を行います。雑誌・新聞は年1回、CD・DVD等は随時行い、出版社の巡回選書、店頭選書も適宜実施しています。

(2) リサイクルコーナー

中央図書館と小山分館では、除籍・廃棄等になった図書・雑誌を、利用者の方々に有効活用していただくため、リサイクルコーナーを設置しています。リサイクル資料は無償で譲渡しており、冊数に制限はありません。売却しない、有償で貸出ししないことを条件に、利用者各自でお持ち帰りいただいています。

9 ハンディキャップサービス

体に障がいを持ち、図書館利用が困難な方のために、点字図書や大活字本・録音図書をはじめ、布の絵本・点字絵本・点字雑誌の収集など、資料面での充実に努めています。

また、玄関のスロープ・点字ブロック・身障者対応エレベーター・朗読サービス室・多目的トイレ（オストメイト設置）・身障者用駐車場（おもいやり駐車スペース）など、施設・設備面においても、より使いやすい図書館を目指しています。

また、平成27年度から、視覚に障がいのある方を対象にした視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」に加入しました。活字による読書が難しい方に、「サピエ」からダウンロードをしたデジター図書を貸出するサービスを行います。

(1) 郵送貸出

体に障がいを持ち来館が困難な方に、資料を郵送により貸出するサービスです。視覚障がいのある方には点字図書、録音図書、大活字本を、その他の身体障がいのある方には一般図書や許諾を得た録音図書などを郵送します。

(2) 宅配サービス

体に障がいを持ち来館が困難な方の自宅へ、資料を宅配するサービスです。視覚障がいのある方には点字図書・録音図書（朗読CD等）・大活字本・「サピエ」からダウンロードしたデジター図書などを、その他の身体障がいのある方には一般図書やCDなどを、月に1回、宅配します。

10 図書館ボランティアの育成・受入

ボランティア活動は、自己啓発、自己実現につながる生涯学習の一環でもあります。生涯学習の重要性が注目されるなか、図書館もボランティア活動の場を提供するとともに、必要な知識を得るための研修の実施にも努めています。

(1) おはなしボランティア

図書館や学校・地域で活躍するボランティアの学習会に、資料の提供をしたり、学習機会を援助したりしています。また、活動の場の紹介もしています。

令和4年度に、中央図書館（分館を含む）を会場にしたボランティアによるおはなし会は、延べ65回行われました。

また、おはなしボランティア団体のいくつかが「小山子どもの本連絡会」（令和5年度は6団体と6個人で構成）を組織し、小山市立中央図書館と連携して、会員相互の研修と交流を深め、子どもと本に関する活動により、地域住民のよりよい文化環境づくりを推進しています。「小山子どもの本連絡会」の令和4年度の活動人数は延べ1,455人でした。

令和4年度は、7月21日から8月31日まで行った「夏休み子どもの本の福袋 わくわく貸出セット」事業、及び、12月24日から1月15日まで行った「年末年始 子どもの本の福袋 わくわく貸出セット」事業では、小山子どもの本連絡会に多大な協力をいただきました。

(2) 移動図書館ボランティア

移動図書館の開設場所で図書等の貸出・返却の補助を行います。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、積極的なボランティアの募集は行わず、登録者は35人、活動人数は延べ128人でした。各開設場所1回あたり約0.3人となります。

(3) 中央図書館ボランティア

書架整理や返却された本の配架を行うボランティアを平成14年度から受け入れており、ボランティア活動にさきがけて研修を行っています。登録期間は1年間です。

ボランティア登録者によって、平成19年8月から「中央図書館ボランティア連絡会」が発足し、自主的に毎月第1水曜日に「中央図書館ボランティア学習会」を開催し、自己研鑽に励んでいます。

平成19年度からボランティアの活動内容も拡大され、防犯、本や雑誌の修理・補修、リサイクル資料の装備、環境美化、図書館主催の行事のサポート、来館された体の不自由な方の利用の援助などの活動が加わりました。平成28年度からは「絵本とこんにちは」事業の補助もお願いしています。

令和4年度の中央図書館ボランティアの活動実績は、登録者数80人、活動人数は延べ1,581人でした。

1 1 団体貸出

市内の機関または団体の代表者（利用責任者）が直接来館して、中央図書館・小山分館・間々田分館・桑分館・移動図書館・公民館図書室や配本所にある図書・雑誌・紙芝居の中から自由に選び、全館合計で100冊以内、1か月間借りることができます。学校の学年やクラス単位での利用もできます。

1 2 広報活動

(1) 「図書館だより」の発行

毎月発行の「図書館だより」で、集會行事や館内展示物等のお知らせをしています。各サービスデスクに備え、来館者に配布しています。

(2) 「広報おやま」の活用

毎月発行の市の広報紙「広報おやま」に専用コーナー「図書館つうしん」を設け、図書館活動の周知徹底に努めると同時に、潜在利用者への呼びかけを行なっています。

(3) ホームページの開設

平成15年1月から、図書館独自のホームページを開設しています。

(アドレス <http://library.city.oyama.tochigi.jp>)

インターネットを通して、蔵書検索や予約、リクエスト（図書のみ）、レファレンスの事例検索・申込みができます。また、利用案内や図書館カレンダー、新着資料の案内もしています。さらに「お知らせ欄」では、集會行事のお知らせや報告記事を随時掲載しています。また、令和4年11月からホームページが新しくなり、オーディオブックやメールサービス等、ウェブサービスの充実に努めています。

(4) その他メディアによる情報発信

「おやま行政テレビ」や小山市コミュニティFM「オーラジ」、小山市の生活情報誌「おりっぷ」、栃木県情報サイト「栃ナビ!」などを活用し、イベント情報等を逐次発信しています。

1 3 学校図書館支援

平成30年4月から、中央図書館に学校図書館支援担当を配置しています。小・中学校、義務教育学校に配置されている会計年度任用職員が学校図書館の業務を適切に行えるよう、中央図書館が研修を企画し、指導と支援を行っています。中央図書館がこうした支援体制を整えることにより、各学校における学校図書館活動を活発にし、児童・生徒の読書活動の推進を図ります。

令和2年度からは、小山市教育総務課からの業務移管で、学校図書館システムの運営・管理

も加わりました。令和3年2月には、学校図書館新システムを導入し、新しいパソコンとプリンターを整備して、学校図書館の充実を図っています。この新システムの蔵書点検メニューを活用し、令和3年度は小学校1校、令和4年度は小学校1校・中学校1校において、学校図書館の蔵書点検を実施しました。